

## インドネシアと日本がパレスチナにアボカド栽培管理研修を実施

[FreshPlaza 2025年8月14日](#)

インドネシアと日本の両国政府は、日本の国際協力機構(JICA)を通じ、生産・販売能力の向上を目的としたパレスチナ向けのアボカド栽培管理研修を開催している。

インドネシア農業省のアデ・カンドラディジャヤ国際局長は、東ジャワ州マラン市での開講式で、アボカドはパレスチナにおいて有望な高付加価値農産物であり、パレスチナ経済に貢献できると述べた。8月11日から25日まで開催される本研修には、パレスチナ政府を代表する15人が参加し、アボカドの栽培と販売に関する全ての段階について学習する。

JICAジャカルタ事務所の発表によれば、カンドラディジャヤ氏は、インドネシアは「アボカド生産に関するベストプラクティス及び経験を喜んで共有する」と述べた。ズハイル・アルシュン駐インドネシア・パレスチナ大使は、インドネシア政府及びJICAによる農業部門でのパレスチナへの支援に対し、感謝の意を表明した。

神保尚美JICAインドネシア事務所次長は、本研修は2007年から実施されている協カスキームを通じてパレスチナの開発を支援するという日本とインドネシアのコミットメントを反映したものであると述べた。

「パレスチナにおける熱帯果樹『アボカド』の総合的栽培管理に関する南南三角協力研修(SSTC)」と題された本プログラムは、マラン市のケティンダン農業研修センターで開幕した。研修は、理論的な講義と現場での実践的な取組みに分かれており、スラバヤ、マラン、グレンク、クラテン、スバン、ボゴール等、インドネシア国内の様々な地域において実施される。

JICAによると、この取組みは、2013年に日本が開始したパレスチナ開発のための東アジア協力促進会合(CEAPAD)が支援する能力強化プログラムの第2フェーズの一環である。本研修は、インドネシア農業省、インドネシア外務省、JICA及びインドネシア国際開発庁(AID)が共同で実施するものであり、パレスチナの開発を引き続き支援するというインドネシアと日本の共同コミットメントを改めて確認するものである。

出典: Antara News

## トルコ 降霜、干ばつ、熱波で柑橘類等が減収

[FreshPlaza 2025年8月15日](#)

トルコでは、春の霜害、長期化する干ばつ、及び夏の猛暑により作物が広範囲な被害を受け、農業生産者にとっては困難なシーズンとなっており、政府の支援を求める声が高まりつつある。

トルコ農業会議所連合会(TZOB)のシムシ・バイラクトル会長は、4月の霜害が65県の生産者に影響を及ぼしたと述べた。同氏は干ばつの影響を受けたサカリヤ県カラス地区のヘーゼルナッツ園を視察した際、「別の危険、さらに大きな災害が迫っている。それは干ばつである。春には一度も雨が降らなかった。6月と7月は近年で最も暑い月であった」と指摘した。

バイラクトル氏は収量の減少を指摘し、農業省はヘーゼルナッツの収穫量を44万9千トンと予測しているが、実際の収量はこれを大きく下回ると見込みであると述べた。同氏は販売を急がぬよう生産者に助言し、生産費、投入資材費、人件費の増加を補うためには価格の上昇が必要であると付言した。また、現金支援、銀行及び農業信用協同組合による融資の見直しに加え、霜害関連の支援を干ばつの影響を受けた生産者に拡大するよう求めた。

柑橘類の生産に関しては、業界の推計によれば、オレンジとマンダリンの収量が30~50%減少した地域もあり、レモンの生産量も減少すると見られる。価格は収穫前に既に高騰しており、冬の間も高止まりすると予想されている。柑橘類の主要産地である南部のチュクロヴァ地方では、降雨の不足により貯水池の水位が著しく低下している。夏の高温により、成熟中の果実が損傷し、収量と品質の両方が低下した。

出典: Daily News